

音 楽

指導事項を踏まえ、資質・能力の育成を目指した授業づくりのポイント

音楽科では、内容の各事項（指導事項）を踏まえた授業を行うことで、児童生徒が音楽的な見方・考え方を働かせながら学びを深め、資質・能力の育成を目指すことができます。授業づくりにおいては、その題材の学習において、児童生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は何であることを明確にし、児童生徒がそれらをよりどころとして思考・判断したり、知識を得たりすることができるよう、指導を工夫する必要があります。

（題材例）中学校第3学年 題材名「音楽に込めた願いを感じ取ろう」 教材名「ブルタバ」（スメタナ作曲）

本題材で扱う学習指導要領の内容「B鑑賞(1)鑑賞ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)」

（生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素「旋律」「強弱」）

※曲中にある場面から（A：ブルタバの2つの源流／E：聖ヨハネの急流／F：幅広く流れるブルタバ）



「知識」の習得を目指し、生徒が、「旋律」「強弱」を思考・判断のよりどころとして、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解できるようにします。

T：前の時間は、A～Dの場面について、主に旋律と強弱に着目して聴くことで、曲を深く味わうことができましたね。今日も、旋律と強弱に着目しながら、Eの場면을聴いてみましょう。

S1：川が激しくうねっている感じがするのは、（楽譜を示して）同じリズムで上がっていく旋律が、クレッシェンドしながら繰り返しているからだと思いました。

S2：前の時間に学習した当時のチェコ状況を想像しながら聴いてみると、何度も繰り返されるこの旋律から、チェコの人々の怒りの感情をイメージしました。

T：いろいろな意見が出されましたね。では、皆さんの意見を参考にしながら、もう一度、聴いてみましょう。

S3：初めは、シンバルの強い音から水しぶきをイメージしましたが、当時のチェコ状況を想像しながら、この旋律に着目して聴いてみると、人々の感情が高まり、爆発した様子をイメージすることができました。この曲には、川の流れの様子だけでなく、人々の心まで表現されているのだと思いました。

Point! 事項イ(イ)の指導に当たっては、事項イ(ア)との関連を図るなどして、生徒が音楽の特徴を理解できるようにし、その音楽の特徴が、どのような背景から影響を受けているかについて、聴く活動を通して自分自身で捉えていく過程が必要です。



「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指し、生徒が、「旋律」「強弱」を思考・判断のよりどころとして、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにします。

T：Aの場面とFの場면을比較して聴いてみてください。

S2：（楽譜を示して）Aの場面の「ブルタバを表す旋律」が、Fの場面では、長調で使われています。

T：実は、Fの場面の旋律が、チェコ民謡を基にした本来の旋律の姿なのです。スメタナは、Aの場面でこの旋律を短調にして使っています。どうしてだと思いますか。もう一度、聴いてみましょう。



S1：人々が悲しむ様子を表現したかったのだと思います。

S2：Fの場面では、旋律を長調に戻し、強弱をピアノからフォルテにすることで、人々が祖国を取り戻し、喜んでいる様子を表現したかったのだと思います。

S3：スメタナの思いやチェコの人々の気持ちを想像しながら聴いてみると、心の中に悲しみや喜びの感情があふれ出てきます。もっとじっくり聴いてみたいです。

T：では、全曲を通して聴いてみましょう。聴いた後で、学んだことを整理しながら批評文にまとめましょう。

Point! 曲や演奏に対する評価の根拠には、事項イに関する内容が含まれることが大切です。音楽の特徴を共有したり、互いのイメージや感情に共感したりする場合には、曲を聴き返すなどして、言葉で表したことと音楽との関わりが捉えられるようにすることが大切です。